

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年	1	必修
担当教員			
大川 友美			
G (現代ビジネス学科)	L (基礎科目)	BS (社会人基礎)	105 (基礎・入門科目)

授業のねらい（概要）	職務適応だけではなく職場適応という言葉があるように、職場で良好なコミュニケーションを図ることができない為に悩み健康を害する人が社会問題になっています。協働作業の実践を通して、何を伝え合う必要があるのか、またなぜ伝え合わなければならないのかといったコミュニケーションの本質を理解し、社会や地域において共に分かち合い、協働できる力を養います。相手の意見を尊重しながら自分の意見を論理的に見直し、誠実かつ柔軟なかわりができるようにすることを目指します。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業のねらい・到達目標、授業概要、授業計画・スケジュールを確認し理解する。 自己紹介ワーク 復習（時間）：配布された授業概要・授業計画書を理解する。 自己紹介をできるようにする。（60）	
	第2回	コミュニケーションを知る コミュニケーションとは何かについて全般的に理解する。 復習（時間）：配布されたレジュメの内容を理解する。（60）	
	第3回	事例検討① コミュニケーションに関する事例文を読みプロジェクトチームで検討する。 復習（時間）：配布された資料とレジュメの内容を理解する。（60）	
	第4回	事例検討② コミュニケーションに関する事例文を読みプロジェクトチームで検討する。 復習（時間）：配布された資料とレジュメの内容を理解する。（60）	
	第5回	非言語コミュニケーション 印象について体験しながら理解する。 復習（時間）：授業で学習したことを踏まえて授業外で印象を意識した共感的なかわりを実践する。（120）	
	第6回	傾聴する 傾聴するための知識と技術を習得する。 復習（時間）：授業で学習したことを踏まえて授業外で傾聴を実践する。（120）	
	第7回	質問する 質問するための知識と技術を習得する。 復習（時間）：授業で学習したことを踏まえて授業外で質問を実践する。（120）	
	第8回	伝える 伝えるための知識と技術を習得する。 復習（時間）：授業で学習したことを踏まえて授業外で論理的に伝えることを実践する。（120）	
	第9回	ファシリテーション① ファシリテーションの知識と技術を習得する。 復習（時間）：授業で学習したファシリテーションの技法を理解する。（60）	
	第10回	ファシリテーション② ファシリテーターになりディスカッションをする。 予習（時間）：授業で学習したファシリテーションの技法を理解した上で、実践に向けて準備をする。（30） 復習（時間）：授業で体験したファシリテーションの技法を理解する。（30）	
	第11回	ファシリテーション③ ファシリテーターになりディスカッションをする。 予習（時間）：授業で学習したファシリテーションの技法を理解した上で、実践に向けて準備をする。（30） 復習（時間）：授業で体験したファシリテーションの技法を理解する。（30）	
	第12回	プロジェクトチームでインタビューをする① プロジェクトチームでインタビューの準備をする。 復習（時間）：配布されたレジュメの内容を理解しプロジェクトチームでインタビューの準備をする。（60）	
	第13回	プロジェクトチームでインタビューをする② プロジェクトチームでインタビューの準備をする。 予習（時間）：配布されたレジュメの内容を理解しプロジェクトチームでインタビューの準備をする。（60） 復習（時間）：各チームでインタビューのリハーサルをする。（60）	
	第14回	プロジェクトチームでインタビューをする③ プロジェクトチームでインタビュー実施（全体の前で公開インタビュー）。 復習（時間）：個人でインタビューの報告書を作成する。（60）	
	第15回	総まとめ プロジェクトチームでインタビューをふりかえり、報告書の書き方を理解する。 授業全体をふりかえり個々の今後の課題を抽出し目標を立てる。 復習（時間）：報告書について理解をし、報告書を書けるようにする。（120）	
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	この科目はD P（ディプロマポリシー）で掲げられている「実践力を身に付け、組織において協働できる能力」を身に付けることを目的としています。 【身に付くスキル】		

	発信力・協働力
到達目標	①印象を意識したかかわりができます。 ②対話を意識したやり取りができます。 ③チーム活動において協働を意識したかかわりができます。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	次回の授業内に行います。
履修上の注意	個人ワーク・グループワークなどを交えて行います。 授業進度、履修者の人数や状況等によって授業計画を見直し、学生に告知した上で一部を変更したり順番を入れ替えたりすることがあります。
成績評価の方法・基準	学修意欲25%、コメントシート内容15%、提出課題20%、期末試験40%
教科書	適宜オリジナルのレジメを配布します。
参考書・教材	【参考書】なし
備考	演習科目／実務家教員による授業
教員との連絡方法	Eメール